

以上掲げたる記述によれば、此等の九姓と稱するものは、兩唐書の記せる藥羅葛以下の九姓より成れる回鶻を稱するものには非ずして、(一)の例の示せるが如く、九姓鐵勒を指せるものに外ならざることを知り得べし。

さて九姓鐵勒なる名は、之を最も普通の意味に解釋すれば、鐵勒が九姓部より成立せしが爲に、かゝる名を得たるものと考がふ可きが如しと雖、然も鐵勒の姓部は甚だ多くして、僅かに九姓に止まらざりしことは、隋史・北史等の鐵勒傳に見ゆるが如くなれば、此の名は下に引ける兩唐書契苾何力傳に於て(第三三六頁參照)、舊唐書が單に九姓と記せるものを、新唐書が鐵勒九姓と記せるによりても明らかなる如く、鐵勒部中の九姓より成りし一團の名稱に外ならざるを認めざる可らず、然らば兩唐書・冊府元龜等にいふ九姓||九姓鐵勒||鐵勒九姓とは如何なる部族の團體を指せるものなりや、此等の書は之に關して直接説明を加ふる所無けれども、然も少しく精細に檢讀する時は、此の中に數へられし數部を探究するは然く難事に非ると共に、彼の兩唐書に列舉せられたる藥羅葛以下の九姓とは、全く相異なる姓部を指せるものなるを知り得べし、

(一) 通典 卷百九十八に

其(開元三年)秋默啜與九姓首領阿思布等戰磧北、九姓大潰、人畜多死、思布率衆來降、四年默啜又北討九姓拔曳固戰於獨樂河、拔曳固大敗(此の中九姓拔曳固に關する記事は、兩唐書回鶻傳に載する所亦全く之と同じ、只だ新唐書は九姓拔野古に作れり)。

(二) 冊府元龜 卷九七三 助國征討篇に

開元四年七月突厥可汗默啜背恩、爲九姓杖(拔之)曳固所殺

(三) 冊府元龜 卷九七五 褒異篇に

九姓回鶻と Toquuz Oruz との關係を論ず